

文科省の松浦室長が資料 1-2-1(論点)の前半を 7 分程で説明した後、池上委員長が同資料の後半(スケジュールと議題)を 6 分程で説明した。その後、23 分程の質疑応答があった。

資料 1-2-1 を読み返してみると、前半と後半の不整合が気になる。前半は事務局である松浦室長が作り、後半は記名されている様に池上委員長が作った事が明らかである。前半では論点を 4 つ上げ、第一は「理念の検証」で、第二は「ISS の意義の検証」で、其れを三つの論点に区分している。後半では其れを部会の各開催日に配分されている筈が、「理念の検証」の機会が消えてしまっている。又、「ISS の意義の検証」を三つの論点に分けているのと一致しているのは、第2回から4回の三回に分けていると云う 3 分割と云う事だけであり、各回毎に各論点と云う分け方ではない。

池上委員長:多分色々ご意見があると思うんですが、大体一応こう、ムニャムニャ。如何にも此れは事務局の文章で、で、私のはあの、理念は何だ、理念は何だって話になるとですネ、良く分からない処あるんですけど、あの、唯此処で盛られる事は、背景申しますと、ムニャムニャに於きまして、今、宇宙についてのまあ、色んな方向、方針を出す事、回答がある訳なんですけど、現状では法的には JAXA 法ムニャムニャ。それからもう一つは JAXA の予算については、予算の執行って云うのは文科省がやってる。当然文部大臣として見ますとですネ、ISS 計画について責任があるって云う風にカン(?)、あの、当然のそう云う風に考え方がムニャムニャ。で、

あの、当然文科大臣についてはですネ、「斯う云う事について方向出してくれヨ。」って云う指示はですネ、多分皆さん了解される事であると。ただ、あの、非常にフラストニクワエテ(?)おりましてですネ、又別の見方をしますと、此処迄ホンジョウ(?)って事は事務局にですネエ、あの、何、何、答が無いと云う事、落とし所が無いと云う事で、是非此処であの、十分議論して頂きたいと思います。それから次のあの、別紙で書いてありますのはですネエ、此れはあの具体的に、どう進めたら良いかって事についての私の考え方を示したもので、で、本日はあの、「経緯」、先程あの、既に入ってる訳ですけど、「経緯」例えば、あの、ムニャムニャ。で、此の後又、白木理事の方からですネ、ISS についての此れ迄の計画、実施ムニャムニャ。それから時間があれば、「海外機関のムニャムニャ」、それから、次回はですネエ、「ISS の今日的意義の検証」と云う事で、此れあの、「きぼう」を此れ迄どう使って来たか、で、今後どう云う風な使い方があるムニャムニャして行きたいと。で、一つはですから、実験室或いは研究室...で、もう一つはあの、「地球規模の問題を解決するヒイシ(?)」になった場合に「きぼう」って云うのは活用出来るかどうか、或いは産業振興って云う点でどうなのか。蟻はあのビジネス等へのイノベーションで云う形とるのか、斯う云う様な事を謳って、ムニャムニャ。で第3回目にはですネエ、あの、アンゼンテート(?)スタンゼツセイ(?)が、ご指摘の様にキイテ(?)おりまして、あの、「日本社会にどうなのかって処について議論したいと。で、此れは「国際競争力の持

「持続的発展」それから「安心・安全社会の実現」それから「人材育成」と云うのがある。テーマがあるんですが、此れジユテ(?)それから、同時にエー、国際協力について、外交それから同時にあの、安全保障って云う件については...で、もう一つはコスト・パフォーマンスの話が、今非常に強い関心を持たれている訳なんですけど、先程一寸あの、ムニャムニャ。パフォーマンス...どこまで議論出来るかって云う事も含めてですネ、ムニャムニャ。それから6月3日はですネ、此れはどちらかって言うとハードウェア関係について議論すると。エエト、此れの議論は、一寸今、私も具体的にどう議論するかって云うのは、あの、...固まって居りませんけれど、あのHTV...先程あの、紹介御座いましたHTVについて、或る意味での期待が大きくなると。で、其の機能向上についても議論出来たらしたいと思います。で、**具体的には物資の回収、それからもう一つは宇宙飛行士の地上帰還機能のムニャムニャ。此れ多分、あの、やれって言えば、JAXAも「はい、やります。」**って言うかもしれないけれど、**此れは非常に難しい、予算も大きなムニャムニャ。此れ、議論してもですネ、其の儘直ぐGOって話に行くよりは、寧ろ問題点とか...で、しかし其れでもやるなら、斯う云う様なやり方をムニャムニャ良いんじゃないか<sup>1</sup>**と。それから後は「ISS運用の課題と実施方法」此れ共通の問題なんですけれど、アカイ(?)2020年迄を考

<sup>1</sup> 何を考えているのか良く分からない。実施か否かの決断に先立ち、ケーススタディが必要だろう。開発費の見積り無しに決断出来るものではない。

えてムニャムニャ。それから、あの、中間の取り纏めをですネエ、大体6月中位に予定をして居りまして、で、あの、此れは当然の事ながら、**行政のあの、スケジュールが有る訳でありましてですネ、ムニャムニャ。で、其処に対するインプットつてのを我々考えなきゃいけない<sup>2</sup>**と云う事で、で、其の時点で中間取り纏めも視野に入れて、議論をやりたい。...で、後あの、公開でやるって云う風にあの、原則なって居りますけれど、場合によっちゃ非公開の方がって云うムニャムニャ。或いはあの、特にナスポーズ(?)的に、あの、ガンダリユウキット(?)とデザインワ(?)あのー、其方のチチ(?)が有った場合は、あの、デイ・スルーって言っても無理なんで、一部の方が集まって頂いて、まあ、ジユウキュネカイケイツウカイノ(?)ムニャムニャ。それから後、あの、JAXAの方からシコクゲカ(?)したと思うんですが、シゴジ(?)あの、彼等に言っているのは、主語をJAXAに置いて...JAXAの資料ってどんな趣旨の...彼らは彼らなりに言いたい事が沢山あると思うんですが、其の或る意味で、あくまでもJAXAとして斯うなんだって云う**ファクトを<sup>3</sup>**出すって云う風な事で、話をしてム

<sup>2</sup> 行政のスケジュールに合わせてインプットするものが、「政策」以外の何であるのか。「或る意味気が楽」などと云うものではない。寧ろ、一案に絞る事が出来ないだけ、沢山の案を比較評価する必要があり、腹を決める事より手間の掛る仕事ではないだろうか。

<sup>3</sup> 「事実」と「ファクト」はどう違うのだろうか。何れにせよ全てを披歴する事など出来ないのだから、情報を選択する事自体で作為を免れない。其れを片仮名語にすれば和らぐのだろうか。

ムニャムニャ、是非あの、文科省等々を気遣う事無く、JAXAのムニャムニャ。で、後ですネエ、正直申しまして、此処には一寸書いてなかったんです、ポストISSの話がですネエ、非常に重要な話であって、で、あの、私としては一寸此処では余り議論したくないのが本音<sup>4</sup>では御座いますが、あの、其れがマストと云う事になるとすれば、其れについて何かムニャムニャ。多分グルグルグル回ると思うんですが、其の時は...あの、ジュンホ(?)前に行ったり、或いは前のモノマ(?)を一緒に行ったりする事が有ると思いますが、其の辺の事でムニャムニャ。それから、議事が混乱した場合は、あの、議事進行をムニャムニャして頂ければ、ムニャムニャ。.....何か、此れについてご質問御座いますでしょうか。

的川:一寸良い機会なんで...理念の事をお話になったんですが、実際には地球的な規模の課題の解決と云うのは、あの、上手く解決出来てない訳ですヨネ、今ネ。で、ステーション使ったからって、解決出来る訳がないって云うのが、大体皆さんあの、感じてらっしゃると思いますけど。だから、核兵器の問題もそうですけど、環境の問題もあの一、非常に大きな問題

<sup>4</sup> ISSの後にどんなプロジェクトを実行するのかを決める必要はないが、「何の為にISSの計画が有るのか?」と考える時には、ISSによって切り開かれた将来像を想像しなければならない。5年程度で収支バランスを考える商品企画なら、其の商品の事だけ考えれば良いが、国家安全保障に係る国家事業は、もっと先まで考え抜いた上で、今後5年程度の計画を決断するのではないが、ISS計画での身の振り方とは、当に其の様な質のものだろう。

を抱えてて、解決出来ないから皆非常にこう、悩んでる訳で、其処に向けて役に立ちたいと云う、その一、希望がISSの利用について有ったとして、此れ迄、地球的な規模の解決の為にISSがどう云う努力をして、どう云う風に役立つ芽が出て来たのかって云う風な事が、多分、我々が一番掴みたい事かナと云う風に思うんですネ。で、アメリカのオバマ大統領が5年延長しようと言った中には、斯う云う理念はそれ程含まれてない様な感じを、私は受けるんです。読んだ限りではですネ。で、あの、白木さん、今日説明して頂こうと思って、大分張り切って、中々そのチャンスが訪れない(会場の笑いで掻き消される)様な、私は気がしてんですが、其のご説明の中に、是非そう云う観点でのご説明を是非入れて頂きたいと云う事と、一体、日本が5年延長するって云う事を放棄したら、アメリカは困るのかって云う、アメリカはって云うより、ISS自体が困るのかって云う、そう云う点を少し分離してご説明頂ければと云う風に思います。それから、全体の問題が、日本が此れから有人飛行を本格的に取り組む意思が有るのかどうかという事と、非常に密接夏狩りが有るので、此れはあの、此の部会の議論の中では是非やって頂くと良いナと思うんです。...あの、座長はどうも違うご意見の様ですが...実はあの、有人飛行を視野に入れた月探査懇談会って云うのが、ズッと開かれて来た訳ですけれども、其処の中では結局有人の議論で云うのは殆ど行われませんでした。で、今後の見通して云うのを、色々お話の中でも、有人の議論を宇宙戦略本部として本格的に何か場を設けてやる心算は無いつ

て云う事を、かなりはっきりと言明されてますので、これは何か、ズルズルと斯う云う問題が起こって云うのは大変困ると思うんで、まあ、非常にスナイッチ(?)話ですので、此の部会で是非議論頂ければと思います。以上です。

向井: すいません、此のあの、理念と、まあ此の理念に基づいて、此の審議内容が決まってる訳ですが、此処の処で私の提案で言うか、是非あの、折角此れだけの素晴らしい人達が集まっているので、議論して頂きたいと思うのは、少し理念で云うものを広げられないか<sup>5</sup>と。此処に出て来てるのは目に見える理念、何かの問題があって其れが解決出来るかって云う理念なんです、基礎科学ですとか科学自体が面白い、で、其の物が例えば40年先、あの、下村先生のGFP(?)も同じですヨネ。そう云う、その日本、経済大国そして先進諸国と言われる日本が、本来そう云う基礎科学の部分と云う処にどう云う姿勢で、あの、お金が掛けられるか掛けられないかではなくて、姿勢が有るか無いかだと思っんですネ。姿勢があっても其れは精神で、貧しく清くてお金が掛けられないものもある。だけど、その、少なくとも姿勢位はキチンと出さないと、

<sup>5</sup> ご指摘の記述は例として、「地球規模の課題の解決(食料・資源・エネルギー問題、環境保全、国際平和の実現等)」と「人類の活動領域拡大の動機」の2点が掲げられている。前者は「解決」と掲げるものの実現は程遠く「解決に寄与」としか書けない筈である。又、後者は自動的に「有人宇宙活動が是認」と解釈する者が多数出て来よう。加えて、向井委員がご指摘の様に、問題解決型の課題提起であり、其れを理念と呼ぶにはお粗末だろう。

経済大国の日本あるいは先進諸国の仲間入りをする日本としては、一寸片手落ちの様な気がするんです。ですから多分、此処の中で云うとISSの今日の意義とある、二回目と第三回目の議論の中で、あの、目に見えた結果だけを求めるのではなく、そう云ったその、基礎的なものと云う風に思います<sup>6</sup>。で、此れあの、委員長がエビデンス・ベースと仰るので、例えばあの4月25日の、此れは日経の新聞なんですけれども、日経新聞で言ってる事は、「宇宙実験、日本の成果は何か?」って云うので、宇宙医学データの蓄積だとか、そう云った事は良いけれども、例えばアメリカのサイエンスだとか、米国のネイチャに、有名な科学雑誌に掲載された例は無いって云う様な事は批判に出てます。で、此れはどう云う事かって言うと、あの、一つはその目的研究、何か問題があるから解決しようって云うものでやった研究に関してはスパンが短くて、結果が出易い。だけど、そうじゃなくて科学がホントに面白い、例えば重力が半分になったら何が起こったの

<sup>6</sup> 同感であるが、此れは未だ国家安全保障の一部である。基礎科学に於いてゆっくりではあっても不断の前進を続ける事は、国家の長期的な存続に関わる重大事項である。此の他にも、安易に輸入できない技術を習得し、常に前進を続ける事も国家安全保障の一部である。その他も含めて安全保障の活動は、保険の様なものであり、此処に支出を集め過ぎると日常生活が破綻してしまう。其の天井の位置を決めるのが政治決断だろう。向井委員の主張される「姿勢」だけでは不十分で、潤沢とは言えないまでも資金の確保が必要である。

か、そう云う、此れあの、人の体だけではなくて、物理化学的なものも含めて。そう云った事に関して、ホントにメカニズムが面白い、本質が何なのかって事を研究しない限りはサイエンスとかネイチャには載らないんですネエ。あの、要するにあの、飛行士が骨が弱くなったから、斯う云う薬をやったら解決しました。其れは臨床の学会の雑誌等の中に幾らでも載ります。だけど、メカニズムまで踏み込んだ基礎研究をやらない限りは出来て来ないんで、私は是非あの、斯う云うあの、ブレインが此の...此れも浅島先生が仰って下さった方が力が籠ると思うんですが、あの、日本として此れ、宇宙だけに関わらないかも知れませんが、基礎科学とか、そう云った事をどう云う風に考えてるのかって云う姿勢だけでも、**予算の裏付けは無くても良いけれども、姿勢だけでも出して頂きたい<sup>7</sup>**と思うんです。

角南: 済みません、ゴテナイユケツ(?)問題であの、エエトまあ、ホント理念を広げるってのは非常に重要なポイントだと思っております、あの、其の多分対極的な議論としては財政の問題だと思うんです。それで、アメリカで先日あの或る予算局の関係の人と話をして、科学技術予算と云うのは景気が良くなって来るとですネ、非常に厳しい態勢を斯うバランスする為にですネエ、先ずはその、ターゲットになるだろうと。

<sup>7</sup> 極めて謙虚な姿勢では有るが、此れでは基礎科学の充実は実現しない。普天間基地問題に対して、鳩山内閣が基地を移転させると云う姿勢だけ出したが、何の裏付けも無かったので、交渉が暗礁に乗り上げてしまったのが好例である。

今は、エー、キンキ(?)サプライの後ですネ、まあ、緊急補助的にアメリカの補正予算と云うものを科学技術で、或いはグリーン・イノベーションと云う事でやっていますけれども、其れがですネエ、景気が良くなって来ると恐らく財政削減で云う事で、当に支出の削減で云う事で、バランスの圧力が変わって来る。で、其処について唯一、じゃあ何の為にやるのかって云う議論、又出て来ると思うんですネ。そうなった時にまあ、理念とか目標とか、そして其れを大統領なり、其の政治決断で云う処でリーダーシップが求められて行く事だと思えますので、此の議論またアメリカでも多分かなり戻って来るのかナって。で、先日あの、アメリカの研究者のグループから、私も参加しないかって云う或るプロジェクトがやって来まして、其れはアメリカにおけるミッション型ファンディングですネ、科学技術に係る。此れについてももう一度経済学者集めて検証したいと。で、多分斯う云う予感はですネ、彼ら感じていて、で、そう云う意味でのその一、費用対効果を越えるですネ、かなり大き目に捉えたまあ経済理論で言うか、経済的なその、あの...リベートって云うものが、あの、出て来る筈だと思います。で、其れを、まあ、センサキ(?)まあ、線表って形で、恐らくアメリカの場合ですと、ベンチャ・キャピタルとかですネ、其れから民間の力を借りて、或る程度宇宙って云うものも進めて行けるんじゃないかって、新しいモデルを模索し始めてるから、そう云う大体その、あの、財政的なプレッシャを感じながらの判断だと、僕はそう云う風に理解して居りまして、で、其の中で我が国はじゃあ旧来モデルでやっ

て行けるのかって云う事を、或る程度トクニホンニ(?)議論してくのが此の、最後のあの、イノベーション云々と云うのが...イノベーションてのは、名前は良いんですけど、誰も良く実態が分からないとこありまして、其の辺は非常にあの、此れからのポイントになるかナァと。

池上委員長: どうも有り難う御座いました。あ、

浅島: あのー、ジレイ(?)の処ですネエ、例えばその、宇宙飛行士の方々は、あのー、宇宙船にの...あの...スジャク(?)ですネエ、必ず一つそのー、皆さんが仰る事は宇宙は素晴らしい、あ、地球は素晴らしい、美しいと云うイオ(?)で、そう云った時にそのー、逆に言うとですネエ、素晴らしいんだけど段々地球が弱ってると云うとこある<sup>8</sup>んで、其の辺のトキ(?)も、そのー、人類の価値観の再検討をする場であると云う風に思うんです。で、其れイルトデ(?)4頁の処に若しもならば、人類の持続的な発展と云う処にですネエ、若しも修飾語入れるならば、人類の豊かな持続的発展と云う、此の「豊かな」って事入れる事は、実は人の心をウメル(?)訳で

<sup>8</sup> 話がそっちに行くのかと思ってしまう。宇宙飛行士が遍く地球の素晴らしさに言及するのは、全地球が視野に納まる経験に依るものだろう。自分が其の上に暮らしていて、宇宙から其れを俯瞰して見ると、其れ迄如何に小さな事に囚われて生活して来たのかと反省するのだろう。其れは其れで大切な事だが、宇宙飛行士にならなくても其の様な解脱は可能である。其の話に行くのかと思えば、もっとおかしな方向に進めてしまった。「地球が段々弱っている。」としても、其れは宇宙飛行士の観察結果ではない。

す。それからあの、哲学の変化(?)もウメル(?)訳です。そう云う事が、実は宇宙に行く事によって初めて起こる訳ですので、そう云うのが哲学のコトモ(?)で、エエト、人類の価値観の再検討になるものも是非宇宙カエル(?)って云うので、ツネヲハカリ(?)たいと思います。

池上委員長: あの、是非、そう云う様な議論は、あの、勿論延びるかも知れないですけどネエ、少し考えたいと思います。ア、すいません、あとムニヤムニヤ。

山川: 宜しいですか、エエトあの、此の今の議論に水を指す訳じゃないんですけども、あの、要は6月11日に中間取り纏めで、其れ迄4回しかないんですネ。今日も全てもう終わっていて、殆どなにもチャンとした議論を進めて居ないと云う風に私は思って居ります。で、あの、理念を確認する話、それから人類の役に立つ、此れはもう、私はまあ、自明の事じゃなくて、当然誰でも賛成する事だと思うんです。其処に時間を掛けるべきではないと、其れは別に、別途此の場じゃなくて、別に此の人達はって云う事であれば、幾らでも議論したいと思うんです。だから、物凄く良現実的な事を言って申し訳ないんですけども、その、ダイタヨキ(?)に向けた、現実的な提案をすると、ま、さっき議論だけと仰いました、でも、実際は提案する必要がある訳です<sup>9</sup>。だから、そう云った方

<sup>9</sup> 全く其の通りである。議論をして幾つかの案を提示し、夫々の長短に関するコメントを添えて提出するのである。其の中の一つが、又は適切な折衷案に絞り込む作業は、政府部内の然るべき人が行うのである。

向で、あの、もっと集中的に議論した方が良いんじゃないか、現実的な問題ですネ。で、例えば、外交の話、安全保障の話もありましたけれども、此のメンバでは多分議論出来ない。あの、角南先生勿論あの、色々な観点からお話がされると思いますけれども、例えば外務省ですとか防衛省のですね、其方の方が実際にどう云う風に考えて居られるのかとかですネ、そう云った観点是非報告頂きたい<sup>10</sup>ナと云う風に思ってます。

池上委員長:アッ、ア……もう少しあの……お二人はですね、例の有識者懇談会のメンバで御座いますね、色々言いたい事が有るんじゃないかと云う風な、

中須賀:良いですか? いやあの、私全く今、山川先生の、あの、意見に賛成で、あの、そう云う、ホントにキチツとした議論をしなければいけない。理念でホントに大事な事で、其れも大事な事ですけれども、宇宙ってのは基本的にやればベターなんですネ。やらないよりやった方が当然良い。だから、あの、多分、宇宙ステーションの意義を考えたら良い話がいっぱい出て来ると云う事なんですネ。で、やった方が人間が大いにサムカイユ(?)其処で得られる事は沢山ある。で、一つ大事なのは、其の宇宙ステーションと云う事に日本が注目す

<sup>10</sup> 外交は外務省の意見で大間違いではないが、安全保障は防衛省と考えると大間違いである。防衛省が大切な部分を担うが、安全保障はもっと総合的で、外交も科学技術も含むのである。ただ、外交や安全保障の専門家を交えずに、外交や安全保障の議論をしても時間の無駄になると云う指摘は、全く同感である。

る事に依って、じゃあ何かをやっぱり犠牲にしなきゃいけないところある筈なんですネ。で、其処との矢張り比較はやっぱりして行かなければいけないんじゃないかと云う気が、非常にして居ります。そう云う観点で言うと例えば、16年以降20年まで此の宇宙ステーションを計画、若し入れるとしたらどんな予算計画になるのか、其れに依って捨てなきゃいけないものは何なのか、犠牲にしなきゃいけないものは何なのか<sup>11</sup>、で、逆に其れをやらない事に依って、何がじゃあ出来る様になるのか。で、そう云う事を比較する事に依って、じゃあ、果たして日本は有人で云うものに力を入れるべきかどうかって云う議論をすべきである云う風に私は考えます。そう云う事で、多分あの、あの、何て言いますか、他の分野の…要するにやらない事によって得られる効果って云う事も十分考慮に入れた上で比較してやって、それでもやっぱりISSは良いなって云う事になればやっぱりやるべきだと思いますし、其の辺が僕等も未だ良く分かっていない処ですのでネ、度、そう云う議論を是非して頂きたいナアってのが一点です。それからもう一つは、今のあの、安全保障とかそう云う事を含めてですね、若しISSをやらなくなったら日本としてどうなるのかって云う事、実は僕ら十分知らないんじゃないかと思うんで

<sup>11</sup> 当に其の通りなのであるが、シンク・タンク業の弱い日本では少々苦しいので、小職は其れを保険に例える。日常生活を極端に圧迫しない範囲で、非常に広義に捉えた安全保障を考えた予算の天井を想定し、其の適切な配分としてISSの予算を想定するのではないかと。

すヨネ。知らない儘に変なデシジョン・メイキングを下したら、とっても大変な事になる可能性は有る<sup>12</sup>訳です。で、そう云う事の、例えばホントにじゃあやらなかったらどうなるのかって云う情報を、どれだけ公平な立場で我々に提供して頂くのか、そう云う議論、あの、何て言うのかな、公平な情報が無いと、其れに則った議論てのは出来ないと思うんですネ。残念ながら未だ、今、日本の中にはそう云う情報を取る機関が十分ない。此れはあの、エエト、まあ、戦略本部の中で十分議論して、そう云う情報を取る処を作らなきゃいけないって話してますけれど、残念ながら未だ持ってないと云う状況の中で、如何にその、やらなかったらどう云う事が起こるかって云う情報を確り取ってですネ、其れを皆が共通の土台として議論する。其処が多分ずれてると、議論にならないと思うんですネ。或る人は非常に或る部分を良く知ってる処で議論する、でも他の人其れ知らないって云う事になると議論にならないので、先ずはその皆で共通して、此れはファクトだよって云う情報をどれだけ集められるかって云う事が、此の委

<sup>12</sup> 此れも当に其の通りなのであるが、簡便な方法として抜けた場合に喜ぶ国を想像して見る事が考えられる。もう一つはもっと深刻な話であるが、ISS 計画からの離脱は、それ以後に行われる全ての国際協力宇宙活動からも外れると云う事に繋がる可能性が非常に高い。何か一つ上の活動を企図すると、其れを全て自力で行わなければならず、有力な参考情報からも隔離されれば開発に伴う試行錯誤の幅が広がり、開発費が幾何級数的に増大する事が危惧される。

員会がホントにデシジョン・メイキング出来るかどうかのベースになると云う風に考えますので、其処を是非お考えになって頂きたいナと思います。

池上委員長：有難う御座いました。実はあの、私個人としてもですネエ、「きぼう」がホントにどう役に立つかと云う事について、**全て議論したい**<sup>13</sup>と云う風に思ってます。其の内の外交ソグド(?)の話とか重要な事は分かるんだけど、其れは他でもひょっとしたら、或る意味リュウ(?)かも知れない。それから今、我々は「きぼう」でどう云う、その、「きぼう」があれば何が出来るかって事について、矢張りあの、皆さん納得出来る様なものが出来るムニャムニャ。あの、其れで 14 日以降について非常に...ア、ですから 14 日の日にはもうムニャムニャ。場合によっちゃあ、あの、其れがずれ込む事もあるかも知れませんが、ヨウスト(?)あの、宇宙ステーションの難しさってのは、あの、イガルウチュウタンセポジション(?)て話、あの、此れは但しあの、何て言うんですか、ジゼンテキナ(?)ものでも良い訳ですが、宇宙ステーションで中途半端なんですネ。で、或る人に言わせると「アレ、地球の一部だ。」と云う話があって、で、私もかなり其れに最近近いんで

<sup>13</sup> 何を心に描いての発言か推定不能であるが、小職の一番の心配は、経済論だけで中間報告を纏めてしまう事である。ISS でなければ得られない成果を並べ上げ、其の経済効果を幾ら主張しても、宇宙に勝る効率的な投資対象分野は幾らでもある。経済論に終始すると云う事は、ISS の継続使用を断念すると云う結論にしか辿り着かない事を危惧する。



す。ですから、色々コストの問題等々、議論としても、アマク(?)必要なんですけども、実はあの、ムニャムニャ。事であの、感じを持っとりますんでネ、そんな事もあの、ムニャムニャ。其れに依って、なんてんですか、そうなんだって云う事で、此れ大変だって事で、是非色々なですネ、斯う云うご議論いただけたらとムニャムニャ。で、又全部ファクトベースで話をムニャムニャ。

青江:教えて頂きたいんですがネエ。あのー、此れウイズドローした場合、どうなるんですか。言い換えれば、ウイズドローしたとは、我が国が被るダメージ、損害と云う言い方も出来るだろうと思いますネエ。其れをホントにどう測るんだと云うこと。中須賀さんが仰った前者の方、やや其れに、そう云う。ま、測り方が非常に難しいと言いましょうかですネ、ま、此の予算。アロケーションて呼ぶのかナア。て云うのは非常に測り方が難しい。現実問題非常に斯う定性論<sup>14</sup>て言いましょうかですネエ、感覚論と言いましょうか、そう云った処に出す恐れが多分にあるんなるんですヨネエ。其れをどう克服して行ったら良いか、何か良い知恵は有りますか。

池上委員長:チヨ、チヨ。其れ、今聞いても無理じゃないですか。(会場苦笑)

誰か:其れが分りゃあ苦勞は無い。

中須賀:いや其れは、あの、ヒジユウ(?)と云うものは無いんです

<sup>14</sup> 定性的であっても十分なのではないか。因果関係の連鎖が分かって、其れが増幅傾向が減衰方向かが掴めればさらに良く、其の変化の強さが分かれば更に良いのではないだろうか。

けれど、

青江:あのー、斯う、非常に重要なポイントだと思うもんですからですネエ。

中須賀:日本として、此れからどう考えて行くかって云う事、(聞き取れない)此れ、だから宇宙ステーションだけではなく、全ての宇宙分野に適用出来る、一つヒョウ(?)が出来てるのが必要だと思います。

池上委員長:そうですネ、でも、チョッチョズニカケニシマツテ(?)最終的には国が判断する。で、判断ての明日の話だから、此れ当たるか当たらないか分かんない<sup>15</sup>んだけど、一寸我々の其処の責任が無いと云う、或る意味では気楽って言い方的確じゃないんだけど、やっぱりブイイチノテキバ(?)って云う風にお考え頂ければムニャムニャ見えるんじゃないかナアと云う感じ、あのー。

中須賀:だから、エエト、要は我々が此処で議論した事をベースにして、さっき私が申し上げたのは其れも含めて、最終的に判断するのは国であると。其の提供する時の材料を作り出

<sup>15</sup> 「当たるか当たらないのか分からない。」で済ませられる事は少ない。特に政治判断がそうであってはならない。何か他国に働き掛けた時に、どんな反応で返って来るかは明確に予測出来ないにしても、(レポートで明示しても、頭の中だけで考えても)沢山のケーススタディを行って、好ましい反応が得られる確率の高いものを選ぶのである。此の部会ではスタディの深さは十分でなくとも、ケースの抽出と考慮すべき影響因子の洗い出しは十分に行って頂きたいものである。

す...

池上委員長: そうそう、そう言う事です。

中須賀: 云う立場で宜しいんですか？

池上委員長: そ、その通りです。ですから、最終的にもですネエ、色んな意見が有ったって云う、色んな意見をムニヤムニヤ。

岸: 此れあの、論点整理ですネエ、理念のところで、「地球規模課題の解決」まあ、あの、的川先生も言われた事ですけれど、其れと論点4の(4-1)ですネエ。此れは今の処考えられるのはISIのいちいちの、波及効果位の事で何かを述べるのは良いんですけれども、此れを書いてしまうと、此の...会の問題になって来るんです。嘘つきじゃないか<sup>16</sup>と云う話ですネ。一寸望みの無い事を書いているんです。ですから、余り斯う云うのを表に出してしまうと全体の権威と格が落ちてしまう。品位の落ちた報告ってのはみっともない(会場の笑いで掻き消される)環境エネルギーの問題は絶対無理なんです。

誰か: 成程ですネ。

<sup>16</sup> 全く同感である。多分、「経済効果を評価され、ISSの延長が否定されたら好ましくないから、ISSが役立ちそうな事を皆書いてしまえ。」と云う傾向が感じられるので、岸委員が釘を刺したのだと思う。地球温暖化ガスの観測の為、幾つかの地球観測衛星とISS搭載のセンサが期待されているが、此れが「地球温暖化ガスの削減」に直接貢献するものではない。若し足したら公正と思われるガス分布のデータが取れたのかも知れないと云う程度である。其れを「地球温暖化対策の為に...」と言ったら、嘘つきどころか詐欺師になってしまう。

岸: ですから、ま、理想とか云うんで別項目に作るときはまだ良いですけども。

池上委員長: いや、だけど其れ、我々ネエ、あの、思い込みかも知れませんかヨ。ムニヤムニヤご案内の通り、ダイキンノチョウゲイカカ(?)ズーッとやってる訳ですヨネエ。で、多分あの、イノウエショッテイ(?)ってどこ行っちゃったんだって聞くと、ビトニア(?)...ゴミバコドックニアリオロ(?)って事有るかも知れませんが、もうイッチョ新しい案は出来たから、もう一寸議論しようって云うスタンスで御座いますね、(大勢が一斉に話すので訊き分けられない)

岸: コンセプトが絡んで(聞き取れない)其れ除いてやれないんですヨ。で、しかも其のアイデンセイアツ(?)でコストをちゃんと考えたイノベーションでことに入り込めるか、非常に大事な事ですネエ。.....何かが出来る事は出来る。

池上委員長: ええ、分かりました。

西島: 実は私あの、来週って云うか、次回ですネエ、ムニヤムニヤ、一寸一言。あの、先程からの議論なんですけど、今、岸先生が仰る事は全くそうです。それでも、波及効果と云う事で知らしめるって重要だと思うんですネ。で、その、大学の先生とかカウンタック(?)はですネエ、その、予算を貰う時に例えばホシイナッテコ(?)出すと云う事は、役立たない事だってあるじゃないですか。役立つかもしれない。しかし、5年後10年後に新薬を作るって言ったら、此れ嘘なんです。ええ。そう云う事なんです。だから、そう云う様なダシ(?)だと、波及効果と云うのを知らしめて、で、波及効果が大きい事は良い

と。然し基礎研究に対して、その、民間の企業がそれ程投入出来ない。だからさっき向井さんが仰った様に、その一、企業がですネ、本当に直ぐ役立つと分かってるもんだったら、カイトイグオン(?)でもう、アメリカやってますヨ。そうではなくて、我が国が、製薬企業が、トモ(?)役立つだろうと、生命科学役立つと、そう云う波及効果を狙って、その波及効果の受け取る側から提案デシヨス(?)どう解釈するってのは此れ製薬会社の責任であって、其処に宇宙ステーションがあれば使ってみたいと云う願望が有ると。じゃあ、其処で新薬が出来たかどうかを10年後に全対象、全部ショウエイ(?)する。此れは出来ない。だから、波及効果なので、此の機会にですネ、国民にですネ、その、国の予算を使ってる基礎研究ってのはどうあるべきかと云う事を示し<sup>17</sup>て、そして、そう云う生命科学のその波及効果、例えば新薬が出る時は、大変10年20年、非常にですネ、膨大なお金と非常にその、リス

<sup>17</sup> 此れでは既得権を主張しているのと変わらないのではないかと。何か別の理由があってISSの計画に初めからの参加を決断し、其の継続にも賛成したとする。そうなれば出来る限りISSの機能を引き出す事を考える事になり、必要に応じてISS上の基礎研究や応用研究に促進補助金を出す事を考える。此れ等の研究は参加可否の様な重大な決心の評価対象ではなく、其の結果を更に発展させる為の因子ではないだろうか。此れ等をMUSTとWANTと区別する。MUSTの議論は機微に触れるので避け、WANTの議論ばかりをやる傾向が有りがちだが、そのうちWANTの議論である事を忘れてしまうと恐ろしい。

クが有ると。しかし、良い新薬出たら、其れは一千億二千億と云うのは化ける事になる、云う様な事で、確り伝える。其の中での国際ステーションの位置付けなんだと云う理解を得るのが、私は正論だと思うんですネ。余りにもコゾクナコウ(?)使って、実態はノーム(?)。私のノーム(?)は論点3と論点4てのは、余りにも立つ位置が違い過ぎて、先程出ましたけど、此れ、論点3はですネエ、エエト、考えると、此れは私は個人的にはもう続けた方が良く、で、そう云う続けると云う事に対して、波及効果はどうなのと云う事に対して、論点4で確り書く、云う形だと私は思います。

池上委員長:ア、どうも有難う御座いました。で、イノベーション、ズッとやって来た<sup>18</sup>んです。イノベーション。例えば、今もスレートカイハ(?)企業の方はあの、ピンサートリ(?)活用。で、ダランクワ(?)ですネ、企業に貢献すると云う。で、非常に...非常にユニークな、あの、国じゃないかと私思ってるんですが、其処まで議論出来るかどうか分かりませんけれど、此れもひょっとしたら、あの一、あの一、例えば7月に入ってや

<sup>18</sup> 議論の流れの中から、WANTを引き出して来たように思える。ISSプロジェクトに取り組む中で、イノベーションなるものの機会があり、其れが進む事は悪い事ではないが、イノベーションを目的にISS計画に参加すると云う決断になるとは思えない。イノベーションが何であるか、小職も理解し難いと思っているが、理解は出来なくても其の対象を宇宙に求める事は正しくない様に感じる。イノベーションの有用性を世に訴えたいのであれば、他の分野で努力する方が良くと思う。

るとかですネ、そう云ったもの考えて行きたいと云う風に。だ、日本に残されてる全部の問題を此処で解決するっての(笑いで掻き消される)其れは皆さんのご意向で以てですネ、又あって、チガッテ(?)やるとかですネ、

誰か:そうですネエ。

西島:エエト、スパコンヒロン(?)が良いかどうか分かりませんでした。スパコンと云うのが出て来て、国民がそう云うものが動いてるって知ったとして、議論がタマータムノタイロン(?)此の宇宙ステーションに関してこんだけ金を注ぎ込んで。日本は、どうしてああやって、その、日本ジンジツジタイ(?)では、其れははっきり言えば、相当お金を注ぎ込んで、最初失敗セツモゴネ(?)此れ中国人とか韓国とかインドだとかが登れないんだと。斯う云った事実、実はあんまり知らなくても良いんです。そう云う事の中での、宇宙ステーションの「きぼう」の中で産業に役立つ様な基礎実験、波及とは何なのかって事を示す事は、やっぱり重要です。で、私はその一、色々な宇宙の時ですネ、非常に可愛らしい様な事をやる<sup>19</sup>よりはネ、寧ろですネ、非常に地道なですネ、額に汗かく様な、フウルウダケ(?)って云うか、もう、ホンカメ(?)の、僕等に言わせればなんだけど、一寸やってる事を少し動かした方が、遥かにウケル(?)。本来、新薬誕生とか、生命タンテ(?)のは

<sup>19</sup> 数ある宇宙活動の中の何を指して「可愛らしい」と表現しているのか？ 生物科学や其の近傍の基礎科学を前面に押し出したい気持ちがあつての発言の様だから、余り深い意味は無いのかも知れない。

10年、20年のスパンの話、云う事をもう一度国民に知らしめる意味でも、良い場<sup>20</sup>なんだナと。

池上委員長:アッ、其れではですネ、過去どうやって来たと云う事をでネ、JAXAの方からISS関連、エエト、説明して貰いたいと。今も、ムニャムニャ(議題1の後半に戻った。)

<sup>20</sup> 西島委員の専門分野の人にとって重要だろうが、全国民にとって重要とは言えない気がする。寧ろ知らしめるべきは、「ISS計画に中国、インド、韓国などが入りたいと言ったら、現在の参加諸国を集めて議論する。此方から参加を呼び掛ける心算は無い。」と云う発言が参加国の要人からあつたと、何時だかの宇宙開発委員会で聞いている。斯う云う事を国民に知らしめて、「ISSに参加している国と参加していない国の違いは何だろうか。」「ISSに参加できる国と出来ない国の差は何処にあるのか。」と云った事を真剣に考える「きっかけ」を作った方が後世に役立つのではないだろうか。